

第 82 号

2023年 (令和 5 年)
1月発行

い で

議会だより

令和 5 年
井手町

二十歳のつどい 会場



12月定例会で決まった主なこと	2 P
町政を問う	4 P
委員会報告	12 P
研修報告	13 P
特集・井手町二十歳のつどい	15 P
いでたんが聞く	16 P

12月定例会で決まった主なこと

物価高騰対策として

中小企業・農業従事者・

子育て世帯に給付金支給を決定

12月9日から16日まで12月定例会が開かれ
補正予算などを審議しました。

令和4年度 補正予算

● 一般会計(第4回)

補正総額は3億6646
万9000円で一般会計予
算の総額は87億4349
万8000円です。

主な内容

◎ 井手町子育て世帯応援 給付金

1384万2000円

子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、本町に住所を有する18歳までの子どもがいる世帯に

◎ 中小企業等エネルギー 価格高騰対策支援給付 金

2110万円

中小企業等に対し、経営の安定、継続を支援することを目的に、法人に10万円、個人事業主に5万円を給付するものです。

◎ 肥料高騰対策支援給付 金

167万5000円

農業者を支援し、農業

たことから、その取組を支援するものです。

リュックを支給するものです。

◎ 各公共施設等電気料金 補正

720万円

経営の安定、生産意欲の向上等を図ることを目的に、価格高騰分の15%を給付するものです。

電気料金が大幅に増加していることから、不足が見込まれる額を補正するものです。

◎ IDEゆうゆうスポー ツクラブ補助

34万3000円

IDEゆうゆうスポーツクラブの取組が、京都府地域交響プロジェクト交付金の交付決定を受け

◎ ランリュック・安全帽 支給事業

53万6000円

新入学児童に対し、安全帽に加えて新たにラン

◎ 出産・子育て相談・応 援支援金

525万円

妊娠届出時に5万円と
出生届出後に、子ども一人当たり5万円を給付するものです。

● 新庁舎什器等備品購入

6497万2600円

● 山吹ふれあいセンター 什器等備品購入

1165万5600円

同意案件

● 井手町多賀財産区 管理委員

- 菱本 忠雄 氏
- 高田 勇 氏
- 岩城 隆史 氏
- 高田 重晴 氏
- 窪田 昇 氏
- 八木富士雄 氏
- 平間 政一 氏

財産取得



IDEゆうゆうスポーツクラブの活動の様子



新たに支給が決定したランリュック

令和4年12月定例会 議案・議決結果一覧表

審議結果等は次の通りです。(○=賛成 ×=反対 —=欠席または退席) *西島寛道議長は、採決に加わっておりません。

議案番号	件名	議決年月日	議決の結果	議員名									
				鎌田隆宏	小割直彦	田中保美	奥田俊夫	脇本尚憲	谷田利一	岡田久雄	谷田みさお	木村武壽	
議案第46号	井手町印鑑条例の一部を改正する条例制定の件	令和4年 12月16日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
議案第47号	職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例制定の件	令和4年 12月9日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第48号	井手町手数料徴収条例の一部を改正する条例制定の件	令和4年 12月16日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
議案第49号	井手町地区計画区域内における建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例制定の件	令和4年 12月16日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
議案第50号	京都市市町村職員退職手当組合理約の変更について	令和4年 12月16日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
議案第51号	令和4年度井手町一般会計補正予算(第4回)	令和4年 12月9日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第52号	令和4年度井手町国民健康保険特別会計補正予算(第1回)	令和4年 12月9日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第53号	令和4年度井手町水道事業会計補正予算(第2回)	令和4年 12月9日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第54号	令和4年度井手町多賀地区簡易水道事業特別会計補正予算(第2回)	令和4年 12月9日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第55号	令和4年度井手町公共下水道事業特別会計補正予算(第3回)	令和4年 12月9日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第56号	令和4年度井手町多賀財産区特別会計補正予算(第1回)	令和4年 12月9日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第57号	井手町多賀財産区管理委員選任につき同意を求める件	令和4年 12月9日	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第58号	工事請負契約について同意を求める件(合敷ポンプ場ポンプ設備更新工事)	令和4年 12月16日	同意	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
議案第59号	工事請負契約変更について同意を求める件(新庁舎建設(建築・機械設備工事))	令和4年 12月16日	同意	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
議案第60号	工事請負契約変更について同意を求める件(山吹ふれあいセンター建設工事)	令和4年 12月16日	同意	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
議案第61号	財産取得について同意を求める件(新庁舎什器等備品購入)	令和4年 12月16日	同意	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
議案第62号	財産取得について同意を求める件(山吹ふれあいセンター什器等備品購入)	令和4年 12月16日	同意	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
報告第11号	専決処分の報告について(新庁舎建設(電気設備)工事)	令和4年 12月16日	承認	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
発議第7号	G I G Aスクール構想による一人1台端末や通信環境の整備・維持、ICTを活用した教育の振興のための恒常的な国の支援策の創設に関する意見書	令和4年 12月16日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○

町政を問う

木村 武壽 議員 (4P)

- ◆ 新庁舎移転後の現庁舎の活用

谷田 みさお 議員 (5P)

- ◆ 新型コロナウイルス感染症対策
- ◆ 物価高・地域経済対策
- ◆ 井手町定住促進奨学金返還支援金制度

脇本 尚憲 議員 (6P)

- ◆ 本町の小・中学校における教育環境整備の取組
- ◆ 多賀地区町営住宅建替工事の進捗状況

岡田 久雄 議員 (7P)

- ◆ ひきこもりに対する支援体制の整備
- ◆ 3歳児健診での屈折検査機器「フォトスクリーナー」の導入

田中 保美 議員 (8P)

- ◆ 本町と京都産業大学との連携
- ◆ 公園遊具等の安全管理と健康づくり

奥田 俊夫 議員 (9P)

- ◆ 自動水栓の設置

鎌田 隆宏 議員 (10P)

- ◆ 城陽市や白坂テクノパークとの防災連携
- ◆ 農業従事者の肥料価格高騰に対する支援及び有害鳥獣被害への対策

小割 直彦 議員 (11P)

- ◆ 玉川堤周辺の整備

Q 新庁舎移転後の、現庁舎をどのように活用していくのか。

A 現在、住民サービスの向上や防災拠点機能の強化等を1日も早く実現するため、新庁舎の完成に向け全庁あげて、鋭意取り組んでいる。

Q 新庁舎移転後の、現庁舎をどのように活用していくのか。

汐見町長

新庁舎完成後、適切な時期を見て、慎重に検討していく

新庁舎移転後の現庁舎の活用は

木村 武壽 議員



移転後の活用が検討される現庁舎

Q 区や各種団体に活用してもらうなど、有効利用について、町の考えは。

A 現庁舎の活用については、まず新庁舎を完成させ、滞りなく円滑に業務を開始することが最優先課題であるため、新庁舎完成後、適切な時期を見て、慎重に検討していく。



谷田みさお 議員

新型コロナウイルス第8波の特徴は

畑中保健センター所長

40代50代を中心に
各世代で感染

Q 本町の感染状況、年代別感染者数と特徴は。

A 20代9人、30代7人、40代11人、50代11人、60歳から64歳が3人、65歳以上が3人。

A 9月26日以降は、市町村単位での感染者数の把握は行われていない。

Q 自宅療養者等への食料品や日用品の支援状況は。

A 92世帯173人分を支援。

9月9日時点以降の全数届期間の感染者数は、合計54人。内訳は10歳未満2人、10代8人、

Q オミクロン株対応ワクチンの接種状況は。

A 12月4日時点で約3100人の方に接種。接種率は42.9%、

接種可能対象者で、接種を希望される方は、年内に接種を完了する予定。

射が行えるよう配備と救護対応の看護師を配置。接種会場に救急車も配備している。

Q 町内で無料検査が受けられる体制を整えるべきではないか。

A 無料検査は、事業者が京都府に登録を行い、検査費用等の補助を受けるもので、既に登録受付は終了している。

Q 集団接種会場でのアナフィラキシーの対応は。

A 医師の診断により、即座にアドレナリン注射。

生活支援・事業者支援は

寺井企画財政課長

一般財源も充当し、幅広く支援

Q 物価高・地域経済

対策において、本町ではどのような生活支援、事業者支援を行うのか。

支援給付金。

A 高校生までの子育て世帯に対して、子ども一人1万5000円を支援する井手町子育て世帯応援給付金。

町内の農業者に対して、肥料コストの上昇分の助成の7割を除いた3割の2分の1を上乗せ助成する肥料高騰対策支援給付金を実施する。

町内の介護サービスや障がい福祉サービス事業所に対して、電気・ガス料金の11か月分の2分の1を支給する福祉サービス事業所原油等価格高騰対策支援給付金。

※他に、井手町定住促進奨学金返還支援金制度についての質問がありました。

町内の中小企業等に対して、法人10万円、個人5万円の給付金を支給する中小企業等エネルギー価格高騰対策

この制度は大学卒業後に就職し、5年以上本町に定住する方を対象に、年間返還額の2分の1(上限8万6千円)を5年間で最大43万円交付するものです。





脇本尚憲 議員

小・中学校の教育環境整備の取組は

高江学校教育課長

小・中連携のジョイント・アップ推進事業を取り組んでいる

井手町授業方程式の取組内容とその成果は。

授業の導入において「授業の目当て」と「一時間の授業の流れ」を提示し授業の流れを持たせ、個人グループなど学習の形態や実験、一人1台端末の使用など活動の形態を工夫し、活動時間を増やし理解度を高めている。授業の終わりに

には、振り返りを行い学力の定着と深化を図っている。これを「井手町授業方程式」と定め授業力の向上に努めている。

小・中学校連携の取組状況と「中一ギャップ」に対する対策は。

取組の中心となるのは「ジョイント・アップ推進事業」で、小・中が協働し、9年間を

見通した「確かな学力」の育成を図るため、授業研究や専門部会として個別支援、授業改善そして児童会生徒会合同会議などの研究に取り組むことにより、教員の連携強化につながっている。

小・中学校が連携して取り組むことで、「中一ギャップ」をおこさない状況を作ることができている。

中学校における学力向上の取組は。

「月6テスト」の取組として、月曜日に小テストを行い、補習などを実施している。また、全国・府、学校でのテスト毎に、成果と課題を教科・学年ごとに、分析し、授業などに活かしている。また、英検・数検チャレンジ推進事業においては、意欲が向上しており、高校レベルの級を習得する生徒も増えてきている。

保護者への負担軽減の取組は。

取組内容は
・18歳までの医療費の無償化

・学校給食費の無償化
・食物アレルギー対策の代替食の提供
・入学支度金や通学援助費

・修学旅行援助費
・部活動の派遣費用の支給

・英語検定、算数・数学科検定の受検料の全額補助

この度、小学校に入学する児童へのランリユックの支給を行う。



中学校の授業風景

多賀地区町営住宅建替工事の進捗状況は

柳原建設課長

計画通り令和5年3月に完成予定

入居者選考は。

「井手町営住宅等入居者選考委員会」に新たに3名追加し、様々な実情について確認、勘案して審議していただく。

令和5年3月を目途に入居者を決定する予定。

入居要件等の周知方法については。

広報いで、各戸配布のお知らせ、町HP、町内の広報板に掲示で周知を行う。

入居要件は。

現に住宅に困窮していることが明らかなら、申込時3か月以前から継続して町内で居住し住所がある方、世帯員の収入合算額が公営住宅法の基準範囲内であること。

入居費用や家賃は。

公営住宅法に定める家賃制度に基づく。

入居者選考までの日程については。



工事が進む多賀地区町営住宅



岡田 久雄 議員

ひきこもり支援の体制は

脳本総務課長

府の「脱ひきこもり支援センター」と連携

Q 現役世代の未就労・ひきこもりの増加は、地域社会の大きな問題であるとともに、高齢化が進めば、支える家庭の負担が重くなり、支援が難しくなる。府の専門的なひきこもり相談窓口の状況は。

A 京都府家庭支援総合センター内に「脱

相談体制の整備、ネットワークづくりなどについての考えは。

A 相談があった場合は、当事者の意向を踏まえたとえば、府の「脱ひきこもりセンター」や、宇治市内の相談窓口を紹介するなど連携した取組を行う。

Q 町での支援体制整備に、国や府からの財政支援はあるのか。

A 国庫補助基準額を上限額として、対象経費の2分の1以内を補助する、国の生活困窮者就労準備支援事業費等補助金が活用できる。

Q 近隣自治体での「フォトスクリーナー」の導入状況は。

A 宇治田原町は昨年度から、京田辺市・八幡市は今年度に導入された。

市町村が機器を購入する場合、導入経費の半分を補助する制度があるが、活用しているのか。

A 国庫補助を活用し、導入実績額125万9500円のうち、62万9000円の交付を見込んでいます。

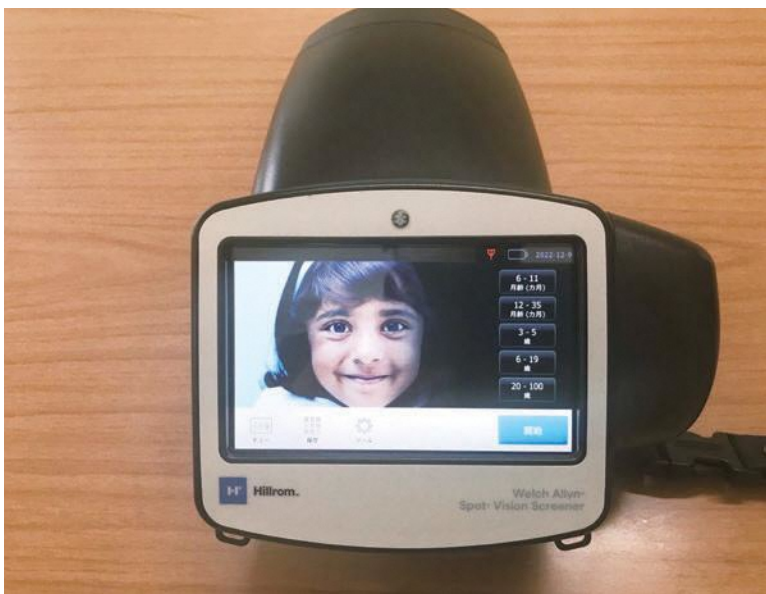
畑中保健センター所長

3歳児健診での「フォトスクリーナー」導入は

12月から健診で使用している

Q 弱視や斜視などの目の異常を早期発見する屈折検査機器「フォトスクリーナー」を導入する自治体が増えていますが、本町が導入した機器の性能は。

A 「近視」、「遠視」、「乱視」、「斜視」や、屈折の左右差が大きい「不同視」、瞳孔の大きさに左右差がある「瞳孔不同」の6項目を測定し、精密検査を要するかスクリーニング(選別)するもの。



12月に導入された「フォトスクリーナー」



田中保美 議員

学公連携事業は継続するのか

山本地域創生推進室長

新たな展開を図る

Q 本年度が最終年度に当たることから「学公連携事業」により本町が「魅力あるまち」となったか検証を行い、今後につけていく必要があると考える。

A 26年度には「井手応援隊」が結成され、「井手！みねーしょん」や「はらぺこランド」を実施。

平成28年度には、学びと交流の場「むすび家ide」を拠点とした事業を始め、平成29年度からは、「むすび家ide」において、放課後の居場所づくりとなる「寺子屋」事業や「親子科学教室」を開始した。

令和元年度には、「むすび家カフェ」をオープンし、地域と大学の交流拠点としての活用があった。

また、実写映画「神様の轍」が製作され、多くの人に井手町の魅力を知っていただいた。昨年度は、府立やまぶき支援学校のPR動画の作成、今年度は本町の特産品を用いた手作りピザのレシピをまちづくり協議会と作成したり、府立やまぶき支援学校の一角に、竹を用いたスコップなどの遊具を作り、スロープや砂場を設置する「わくわくパーク」を完成させるなど、地域の活性化に向けて多くの成果を上げている。

Q 学公連携事業の今後の取り組みは。

A 協定締結から10年の節目を迎え、さらに本町の魅力のブラッシュアップを図り、町内外へと発信していくとともに、子育てしやすいまちづくりへつながる地域交流拠点施設等におけるイベントや交流人口・関係人口の拡大を促進する企画を、学生の視点から地域の皆さんと共に検討しながら、大学連携の新たな展開を図っていく。



井手応援隊が実施した 井手！みねーしょん

遊具の安全管理は

柳原建設課長

資格をもつ業者により点検を実施

Q 各地区の公園遊具の安全点検補修方法は。

A 町管理の公園37か所のうち、遊具等がある32か所全てにおいて、1年に1回、点検資格を持つ業者により安全点検を実施し、不具合が見つければ町直営又は専門業者により修繕する。

着地点の点検を実施しており、安全上問題ないと確認している。

Q 各地区の公園に健康器具が必要と考えるが、町の考えは。

A 各地区から設置要望があった場合には、どの程度利用されるかなどを見極める必要があると考えている。

Q 最も事故が多いと言われるすべり台の着地点に、安全マットの確保はできていないか。

A 利用頻度の高い「玉川さくら公園」にはマットを設置しているが、他の公園については設置していない。資格者による

安全性が問われるすべり台と着地マット



安全性が問われるすべり台と着地マット



奥田 俊夫 議員

町の管理する施設に自動水栓の設置は

協本総務課長 設置箇所は合計55か所

Q 町が管理する各施設における自動水栓の設置状況は。

A いづみ保育園の1歳児クラスに2か所、いづみ人權交流センターのトイレ、研修棟、体育館に8か所、玉水駅前トイレに6か所、山城多賀駅前トイレに3か所、山吹ふれあいセンターのロビー、トイレに16か所、泉ヶ丘中学校の体育館トイレに1か所、学校給食センターの調理室、下処理室、アレルギー対応調理室に3か所、まちづくりセンター榎坂のトイレ等に4か所、玉水駅前休憩所さくら苑の障がい者用トイレに1か所、デイサービスセンターのトイレ、脱衣室等に10か所設置している。



自動水栓への交換が望ましい小学校の洗い場

Q 屋外水栓等の交換は。

A これまで、公共施設の洗手器等の設置に際して、利用方法や頻度等を踏まえ、節水効果等を各々に判断して、

主に不特定多数の方が利用される箇所に自動水栓を設置してきたため、一度に多量の水を使用する清掃や屋外に設置する考えはない。



自動水栓の一例

Q 自動水栓に交換する費用に、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」は活用できるのか。

A コロナ禍の状況により当該交付金は左右されるものと思われ、同一の制度が継続されるのであれば、新型コロナウイルス感染症防止に有効で効果的な事

業内容の場合、活用は可能。

Q 避難所として利用される各施設や保育園、小・中学校での交換の考えは。

A 新型コロナウイルス感染症防止の観点も踏まえ、前向きに検討していく。



鎌田 隆 宏 議員

城陽市や白坂テクノパークとの防災提携は

脇本総務課長 締結に向けて調整を進めている

Q 城陽市や白坂テクノパークとの防災提携が進んでいると聞かすが、概要は。

A 大規模な災害が発生し、その復旧や被害者の避難などが必要となった場合に、京都山城白坂テクノパーク連絡協議会に属する企業の協力のもと、各企業がもつ資源を活用した

支援等を得るため、包括的な連携協定の締結に向けて調整を進めている。

Q 具体的な内容は。

A 京都市城白坂テクノパーク連絡協議会は、17の企業からなる組織で構成されており、重機車輛や大型テント、仮設トイレなどのレン

タル機器をはじめ、食料品や飲料水、入浴サービス、ペット用品などの提供や物資等の輸送、さらには車中避難ができる駐車場の確保など、災害復旧をはじめ被災者への支援に大変、有効な協定になるものと考えている。

Q 今後の方向性は。

A 災害時には、これらの企業からの支援協



様々な業種の企業と結ばれる災害協定

力をしていただけるよう、城陽市と歩調を合わせながら、早期の協定締結に向け積極的に取り組んでいく。

肥料価格高騰に対する支援は

菱本産業環境課長 助成予算を確保する

Q 肥料価格高騰対策事業として、国が肥料コスト上昇分の一部を支援する制度はどのようなものか。

A 本制度は国が肥料価格高騰による農業経営への影響を緩和する目的で、化学肥料の低減に向けて取り組む農

業者に対して肥料コスト上昇分の7割を支援するものである。

Q 申請の手続きは。

A 購入先のJAや肥料店がとりまとめて行うなどの方法により、農業者に給付される。

Q 町独自で補助制度を導入しないのか。

A 今回の国の助成制度を活用し、肥料コスト上昇分の国助成7割を除く、3割の2分の1を助成する。

Q 農作物の食害に対し、町としての対策は。

A 猿、鹿、猪等に対応する防除柵を、3件以上の農業者が集まり一定の費用対効果が得られる地域に対し、国の助成を受けて現物支給している。

また、対象とならない1件や2件の農業者等には一昨年より町単独制度として、防除柵等の購入費用の一部を助成している。

さらに、特定外来生物に指定されるアライグマについては、捕獲檻の貸し出しを行っている。

Q それ以外の大型獣についての対策は。

A 狩猟免許所持者で申請のあった方に対し、捕獲許可を出し個体数の調整を行っている。

職員によるパトロールや追い払いの実施、ロケット花火等の配布により対応している。

Q エアガン等の貸し出しの考えは。

A 現在、職員による追い払いを実施している。エアガンの貸出等による地域での取組が可能かどうか、農家実行組合などと協議していく。



雨樋が外されるなど、深刻化する猿被害



小 割 直 彦 議員

玉川堤の周辺整備は

菱本産業環境課長

府と協力し行っている

Q 玉川の樹木の剪定は。

A 河川管理上、支障となる雑木等については、府に除去や剪定等の管理をして頂いている。

Q 沿道の舗装修繕は。

A 府の河川管理用通

路部分と町道部分があるため、それぞれ協議を行いながら必要に応じて修繕等を行っている。

Q 観光資源である桜の維持管理は。

A 植栽された井堤保

勝会が従前より維持管理されているところで、毎月の定例のボラン

ティア活動に加え、周辺住民の方からの要望等による剪定や伐採については、町も協力しながら維持管理に努めている。

Q 夜間景観のライトアップをLED照明にできないのか。

A ライトアップを

実施されているさくらまつり実行委員会で検討してもらおうことになるが、近年は新型コロナウイルス

ウィルス感染症拡大防止の観点から、さくらまつり自体が中止になっている。

しかし、今春の桜の時期には、商工会青年部が一部の地域でLEDライトを設置するなど、試行もされており、実行委員会としての意見を十分に聞きたい。

Q 車で来られる観光客向けに駐車場を増やせないのか。

せないので。



府と町が協力し管理されている玉川



玉川堤周辺現在の状況

A これまでから、さくらまつり期間中の土曜、日曜には交通誘導員を配置し、井手小学校のグラウンドを臨時駐車場として開放している。玉川堤は玉水駅から近く、両岸の桜を見物しながら周遊できることから、快速も

停車するJR奈良線の利用促進を、しっかりと広報周知していきたい。

Q 付近の土地を利用した新しいイベントを開催できないのか。

A 今後、開設される

井手町地域振興交流拠点施設の指定管理者やまちづくり協議会など、地域の団体などと協議しながら、食や特産品、桜などの自然、歴史文化といった町の魅力を発信していけるよう、開催場所も含め検討していく。

産業厚生常任委員会報告

工事の積算及び入札の研修

委員長 奥田 俊夫

現在、本町の将来を左右する大変重要な大型事業が進められている中、10月24日に議員が工事の積算方法の理解を深めるために、行政側より関係者の出席を求めました。工事積算書の基本的な構成（一般土木）の場合を例にとり、具体的な計算方法や低入札調査価格制度（予定価格・調査基準価格・失格基準価格）について資料を用いて説明を受けました。

委員からの、「近頃の建設資材の高騰に対して、基本的な参考資料を参照しても追いつかないのではないか」との質問に対し、「参考資料は毎月発行されているので、対応できる」と回答がありました。

今回このような課題について改めて理解を深めることができ、今後の議員活動に役立てていきたいと思えます。

総務文教常任委員会報告

個人情報保護法施行に伴う条例制定に向けての研修

委員長 脇本 尚憲

11月17日に全委員出席のもと、「個人情報保護法施行に伴う議会の個人情報の保護の対応（条例制定）について」の調査研究のために、講師として「府町村議会議長会 廣瀬 事業課長」をお招きし、開催しました。制度改正に伴い、議会独自で個人情報保護のための新規条例等の制定が必要となり、来年3月の定例会で、条例提案を行う必要があることから、廣瀬事業課長には、その改正概要について、「講演いただきました。委員からは、今後の条例提案までの流れや、現在それぞれの自治体が個別の条例に基づいて個人情報の取扱いを行っている「2000個問題」について、質疑応答がありました。



交通対策特別委員会報告

新たな町内交通調査・研究

委員長 谷田 利一

11月28日に全委員出席のもと、交通対策特別委員会としての新たな町内交通手段の調査・研究を行いました。

今回は、昨年度委員から、「今後も継続して、既存サービスの拡充・要件緩和などによる利便性の向上なども視野に入れ、検討していくことが必要。」との意見が出たことから、現在社会福祉協議会において検討が進められている「有償運送事業」について、行政側の西垣参与と坂井高齢福祉課長から説明を受けた後、質疑応答を行いました。

事業内容としては、

- ① 来年4月から一年間試験的に運行し、その後の本格運行を検討する。
- ② 65歳以上を対象に、4・5kmまで100円で移動支援を行う。それ以上は200円。
- ③ 乗降場所を希望できる。

といったもので、詳細については確定後、住民に周知することとしました。

市町村議会議員研修報告

まちづくりは人づくり

田中 保美 議員

10月25日・26日に全国市町村国際文化研究所で町村議会議員を対象とした研修会が開催され、本町から岡田議員と参加し、オンライン研修には谷田副議長と小割議員が参加されました。

1日目は、長野県高森町長の壬生照玄氏から、『まちづくりは人づくり』の講義があり、地域創生について人材育成や働き方、子育てについて学ぶことができました。

次に、特定非営利活動法人人工コプラス代表理事の高野孝子氏から、『体験的な学びを通じた地域づくり』の講義があり、「地域づくりは、しあわせ磨き」の言葉が印象的でした。

2日目は、びわこ成蹊スポーツ大学副学長の石井智氏から、「地域の発展にスポーツや大学がで



ること』の講義があり、スポーツが地域にもたらす効果について学ぶことができました。

次に、東京大学史料編纂所教授の本郷和人氏から『文化から学ぶ地域』の講義があり、日本史の様々な文化から地域の大切さを深めることができました。

今回の研修を受け、知識を深めることで、私自身、スポーツと文化でまちづくりをさらに推進していくことを強く感じました。

市町村議会議員研修報告

災害時に議員の役割は

鎌田 隆宏 議員

11月21日・22日に全国市町村国際文化研究所で行われた「防災と議員の役割」の研修会に参加しました。

1日目は、神戸大学名誉教授の室崎益輝氏から「地域の防災力を高める」について講義を、跡見学園女子大学教授の鍵屋一氏と防災企業連合関西そなえ隊事務局の湯井恵美子氏から「平時の防災と議員の役割」について講義とワークショップを受けました。

2日目は、熊本県八代市議会議員の上村哲三氏から「災害時における八代市議会の対応と取組」について事例紹介があり、鍵屋・湯井氏からも「災害時、復旧・復興期の議員の役割」について再度講義とワークショップがありました。



災害の多い時代にどのような対策を考えるのか、自主防災組織等のコミュニティの重要性や「自分は大丈夫」と思うことの危険性など考えることがたくさんありました。

また東日本の震災を経験した議員の方も参加されていて様々な話が聞けました。

今回の研修を受け、災害時に議員また議会として活動したいと思いました。

府町村議会議員研修会報告

住民から信頼される議会を目指して

議会運営委員長 木村 武壽

11月1日に京都府立京都学・歴

彩館「大ホール」で、府内全町村

議会議員を対象とした研修会が開

催され、第1部では、大正大学

教授・地域構想研究所所長

の片山善博氏による『住民

から信頼される町村議会と

は』の講演があり、議会改

革の必要性についてお話し

いただきました。

第2部では、政治ジャー

ナリストの泉宏氏による

『岸田政権の現状と展望』

「国葬」乗り越え、防衛費、

物価高など課題処理に全力

』の講演があり、主に政

治の世界の舞台裏について、

過去の政治家とのエピソード

も交えて、豊富な体験談



を聞かせていただき、議員資質のさらなる向上及び情報収集を図ることができました。

GIGAスクール構想による一人1台端末や通信環境の整備・維持、ICTを活用した教育の振興のための恒常的な国の支援策の創設に関する意見書

賛成全員で可決

提案者 奥 田 俊 夫 議員

子どもたちが豊かな創造性を

備え、変化の激しい未来社会を自

立的に生きていくため、一人ひと

りの個性や能力に合わせた教育の

実現を図るとともに、持続可能で

活力のある未来社会の担い手とし

て、求められる資質や能力を育成

する教育環境を整備することは、

我が国の初等中等教育において極

めて重要な課題となっております。

中略

つきましては、GIGAスクー

ル構想による一人1台端末や、そ

の適切な活用に係る環境を整える

ため、下記のとおり、恒常的な地

方自治体への支援制度を国におい

て整備されますことを要望します。

記

- 1.一人1台端末(タブレット端末)の整備・更新及び回線速度改善等に係る恒常的な国庫補助措置を講ずること。
- 2.学習支援ソフトウェア等の購入経費に係る支援を図ること。
- 3.通信費に対する財政支援を講ずること。
- 4.情報通信技術支援員等(ICT支援員等)の配置及び充実への支援を図ること。
- 5.デジタル教科書無償化及びその活用に対する支援を図ること。

特集

井手町二十歳のつどい

開催された二十歳のつどいの様子を。





- ① 将来の夢
- ② 未来の井手町はどうなって欲しいか?
- ③ 今ハマっていること
- ④ 好きなスポーツ
- ⑤ 地球最後の日に食べたい物は
- ⑥ 座右の銘

いでたんが聞く

新米記者いでたんが町に出かけて、まちのこといろいろ聞いてみます。

今回は二十歳のつどいに出席された皆さんに突撃インタビューをしました。



いでたん



西田賢生
(にしだげんき)

- ① 消防士
- ② 何度も訪れたいと思える町
- ③ 格闘技を見ること
- ④ 野球
- ⑤ おばあちゃんのだし巻き卵
- ⑥ 生きてればなんとかなる



室和花奈
(むろわかかな)

- ① 保育士
- ② 賑やかで笑顔溢れる温かい町
- ③ ドラマ、映画をみる
- ④ テニス
- ⑤ お鍋
- ⑥ 諦めない



宮崎厚希
(みやざきあつき)

- ① 周りから信頼される人
- ② 訪れてみたいと思える町
- ③ スノボー
- ④ サッカー
- ⑤ ラーメン
- ⑥ 鴨の水掻き



中坊一貴
(なかぼうかずき)

- ① 目標とされる人になる
- ② 町外の人たちからも魅力を感じてもらえる町
- ③ スポーツ観戦
- ④ バレーボール、駅伝、野球
- ⑤ 寿司
- ⑥ キツイ時ほど笑ってしよう



脇本香奈
(わきもとかな)

- ① 看護師
- ② 老人から子供まで活気溢れる町
- ③ バasketボール観戦
- ④ バasketボール
- ⑤ おばあちゃんの手料理
- ⑥ やるしかない



村田歩風
(むらたほかせ)

- ① 保育士
- ② 若い人がたくさんで元気!
- ③ 自転車に乗ること!
- ④ テニス
- ⑤ お茶漬け
- ⑥ 案ずるより産むが易し

ご協力ありがとうございました!!